科目区分	専門分野	授業科目	小児看護学疾病論
講師名		実務経験の有無	有
単位数（時間）	１単位（15 時間）	開講年次	２年次　第１学期
授業概要 ＊講師からのメッセージ			

目的：小児期みられる主な疾患と症状、治療、検査について理解する
目標：１．小児期の主な内科的疾患と治療について理解する
　　２．小児期の主な外科的疾患と治療について理解する

回	授　業　内　容	授業方法
1	1.染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 1)染色体異常（ダウン症候群　ターナー症候群）　2)代謝異常(スクリーニング検査含む)　3)低出生体重児　4)二分脊椎症　5)口唇・口蓋裂　6) 鎖肛　7)ヒルシュスプリング病 8)先天性股関節脱臼　9)先天性筋性傾頸　10)腸重積	講義
2	1.代謝・内分泌疾患 1)Ⅰ型糖尿病 2.腎・泌尿器および生殖器疾患 1)ネフローゼ症候群　2)IgA 腎症　3)水腎症　4)膀胱尿道逆流現象 5)急性糸球体腎炎	講義
3	1.免疫疾患・アレルギー疾患 1)気管支喘息　2)食物アレルギー 2.感染症（子どもの感染症に関する基礎知識含） 1)麻疹　2)風疹　3)水痘　4)流行性耳下腺炎 3.呼吸器疾患（診断の手順含） 1)肺炎　2)風邪症候群　3)気管支炎	講義
4	１.循環器疾患 1)先天性心疾患　2)乳幼児突然死　3)川崎病	講義
5	１.神経疾患 1)髄膜炎　2)てんかん　3)脳性麻痺	講義
6	１.血液・造血器疾患 1)再生不良性貧血　2)血管性紫斑病（腎炎含む）　3)血友病　4)白血病 ２．消化器疾患 1)胆道閉鎖症	講義
7	１.外科的疾患 1)眼疾患　2)耳鼻咽喉疾患	講義
8(45 分)	終了試験	
授業方法	講義	
評価方法	筆記試験 100 点満点　　評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学[2]　小児臨床看護各論	
備考	既習関連科目：解剖生理学Ⅰ、Ⅱ、病態生理学（自己免疫疾患）、微生物学、疾病と治療Ⅰ～Ⅷ、小児看護学概論	